

櫻坂を緩歩中

学期末と夏休みにやるべきこと ～3年生の2学期は勝負の学期となります！～

7月10日（木）より、1学期末懇談が行われます。学習面では1学期の5教科を中心に助言等が行われることと思います。

さて、3年生の2学期は勝負の学期となります。決して脅かしではありません。

具体例をまじえて説明します。

私立高校単願受験では、1・2年生の学年末評定と3年生の2学期（4教科は前期）の評定が合否決定の資料となります。私立単願入試は1月中旬に行われますので、3年生の評定は学年末ではなく、2学期（4教科は前期）の評定が使用されるのです。

私立高校一般受験では、1・2年生の学年末評定と3年生の2学期（4教科は前期）及び学年末評定の両方が合否決定の資料となります。私立一般入試は2月中旬に行われますので、「個人調査書」の3年生評定欄には学年末のものを記して提出します。

しかし、どの私立高校を受験するかを選択するのは2学期末となることから2学期の評定も合否決定の資料となるのです。

2学期評定と学年末評定の両方が合否等の決定資料となることから過去にあった事例を2つ紹介します。

事例1 Aさんは私立高校への進学を第1志望としておりました。そこで、当初は単願受験を考えておりました。学習点は合格基準に達していたのですが、特待生となる基準には達していませんでした。

Aさんが私立高校を単願受験した場合、合格はできますが、特待生とはなれません。

そこで、Aさんは私立高校を一般受験することにしました。理由は学年末評定を上げて特待生の基準をクリアするためです。

Aさんの努力はかない、学年末評定が上がり、特待生として私立高校に入学することができました。

事例2 Bさんは私立C高校への進学を第1志望としておりました。しかし、2学期段階で、学習点は合格基準に達していませんでした。そこで、確実に合格が見込まれる私立D高校も受験することにしました。

私立C高校と私立D高校の2校を受験するため、単願受験ではなく一般受験となることから、学年末評定を上げるチャンスをつくったのです。

Bさんも努力がかない、学年末評定が上がり、私立C高校に合格することができました。

このように3年2学期は勝負の学期となります。(1)学期末と夏休みを利用して、しっかりと学習にはげみましょう。やるべきことを具体的に3つ記します。

- ① 夏休み明けに実施される学習コンテストの結果は2学期の評定資料となります。コンテストに向けての学習をしっかりと行いましょう。
- ② 3年2学期には学力テスト総合A(9月)、総合B(10月)、総合C(11月)が行われます。学力テストに向けての学習をしっかりと行いましょう。(1)学期末と夏休み中にある程度、学力テスト対策を行っておけば、ゆとりが生まれ、2学期の学習に良い影響が出ることでしょう。
- ③ 予習を必要とする教科は夏休み中にしっかりと予習をしておきましょう。「スタートダッシュ」という語あるように、2学期にむけて良いスタートがきれることでしょう。

最後に…、

暑さのためか、授業中に寝ているような生徒はいませんか。1学期末の現在、回収しているレポート、課題等は2学期の評定資料とされることが多々ありますよ。

【北海道文教大学附属高等学校】＝学校見学・説明会(対象＝中学生、保護者)

本日、北海道文教大学附属高校からいただいたプリントを3年生全員に配布しました。

プリントには、9月13日(土)、10月19日(日)に開催される学校見学・説明会について記されております。

学校見学・説明会の参加希望者はプリントに記されているQRコードにて各自で申し込みください。(中学校への連絡は不要です。)

@coffee break 働かない働きアリ

ご存じの方も多いと思いますが、北海道大大学院准教授の長谷川英祐(えいすけ)氏が『働かないアリに意義がある』という興味深い本を記されました。

内容は、働きアリの集団の中には、ほとんど何も働かない働きアリが2割もいるというのです。

また、面白いことに、よく働く働きアリだけをまとめてグループをつくっても、再び働かない働きアリが2割程度出現するといいます。

こうした働かない働きアリが出現する主な理由として、長谷川先生は下記の2点を推測しております。

- ① 全ての働きアリが、餌を探しに巣を飛び出した場合、外敵に巣を攻撃された時などに女王アリや巣を守る働きアリがいなくなってしまう。そのため、働かない働きアリは緊急事態に出動する「待機要員」と推測されます。
- ② アリにも「過労死」があると言われております。そこで、全ての働きアリが働き過ぎると一気に働き手が死んで、いなくなってしまう可能性があるため、仕事をさぼって待機していると推測されます。

「働かないアリに意義がある」(長谷川 英祐 著)は、お願いして本校図書館に1冊入れていただいております。関心のある生徒は読んでみてください。